日本福祉大学 山形最上オフィス通信

第29号
2020年2月29日発行

Index

1）社会福祉セミナーin山形
2-4）地域同窓会活動レポート
5）最上町フィールドワーク
6）日福トピックス

第31回 日本福祉大学社会福祉セミナー in 山形

2019年11月16日（土）、山形国際ホテルにて第31回日本福祉大学社会福祉セミナーin山形が開催されました。社会福祉セミナーは、社会福祉研究・研修、実践推進の場として、大学と同窓会が共同し1年に1回行っているものです。

▲満員御礼の会場

元号が令和へと替わり初めての開催ということで、高齢者・障害者・子どもなど、全ての人々がこれからもこの山形で安心して暮らし続けていくために必要なことを学び理解を深めることを目的に、「新時代における地域共生社会への取り組み～やまがた愛・ずっと山形さいでえ～」をテーマに掲げました。

山形県地域同窓会は2018年3月からセミナー実行委員会を結成し、企画検討から広報活動、開催に至るまで何度も大学と協議を重ね、準備を進めてきました。その結果、一般の方、同窓生、通信生、保護者の方など定員130名を超える140名もの方々にご参加いただきました。

▲遊佐町の時田町長
▼講演中の原田副学長

本学と友好協力宣言を締結している遊佐町の時田町長にお越しいただき、来賓を代表してご挨拶をいただきました。

第1部は副学長の原田正樹先生による「地域共生社会の実現に向けて」と題した基調講演が行われました。社会の背景や政策の動向、社会福祉法の改正などを踏まえ、課題の複合化により各分野の関係機関の連携が必要であり、また地域包括ケアシステムの構築には「必要な支援を包括的に確保する」という理念を普遍化する必要があると話されました。

▲小松社会福祉学部長
▼シンポジストの皆さま

第2部では「共に歩める地域づくりに向けて～みんなして、やっぺ！～」をテーマに、シンポジウムを行いました。コーディネーターに社会福祉学部長の小松理佐子先生を迎え、社会福祉士事務所代表の菅原千佳氏、社会福祉協議会地域包括支援センター長の長谷部宏行氏、地区役員の重吉正文氏、最上町の髙橋重美町長の4名のシンポジストより、それぞれの立場での活動が地域共生社会をつくるためにどのように関わっているのか実践報告していただきました。

▼講演中の藤森教授

第3部の基調講演「一人暮らしの増加と今後ーどのような地域や社会を築いていくかー」では、福祉経営学部教授の藤森克彦先生にお話しいただきました。イギリスと日本を例に、単身世帯の増加の実態やリスクを挙げ、対策として「地域包括ケアシステム」と「住民ネットワークの構築」といった“地域づくり”が求められていると語られました。

参加者からは「これからの地域共生社会を考えるうえで参考になった」「お話を聞き、取り組むべき課題がはっきりとした」などの感想が寄せられました。

秋田県地域同窓会

東北地域の2019年度地域同窓会は秋田県がトップバッターとなり、6月22日（土）に総会と交流会が開催されました。今回は初参加の方や数年ぶりに参加された方もおり、大学関係者含め17名が「駅前あっちゃん」に集まりました。

総会の事業報告・事業計画の中で、昨年開催した学習会について今秋も行いたいと考えていること、県南や県北からも参加できるようにしたいと桑原会長から報告がありました。

また、秋田県地域同窓会で発行している会報も、開催通知だけでなく報告などもいれて内容を充実させていきたいと話され、会員のためより良い同窓会にしていこうという想いを感じました。

ほか東北地域の同窓会情報は今野理事から、今春卒業生や入学生については山形最上オフィスから、6月8～9日に行われた全国代表者会議の概要は出席された米谷幹事長から報告されました。

交流会では、初めて参加された方に自己紹介をしていただきました。秋田には転勤で来ていて、数年でまた転勤があるとのことでしたが、参加者のみなさんは「秋田の暮らしには慣れましたか？」「ずっと秋田にいられないのは残念だけど、いる間は同窓会にどんどん顔を出してくださいね」など温かい声をかけていました。

山形県地域同窓会

7月6日（土）に山形県地域同窓会の総会と学習会・つどいの会が開催されました。会場となった山形七日町ワシントンホテルには、初参加の方や昨年の庄内会場から続いて参加された方など総勢19名が集まりました。

新関会長からは今回欠席の方も含めた役員紹介や、6月18日に発生した山形県沖地震を例に挙げ、村山・置賜・庄内・最上各ブロックに要となる人を置き、同窓生の状況を確認し情報共有できるようにしたいことなどが話されました。

また、今秋山形市にて開催される社会福祉セミナーについても同窓生の協力を依頼し、広く参加を呼びかけました。

総会後は本学社会福祉学部長の小松理佐子教授を講師にお招きし、「新時代における社会福祉の課題」をテーマに学習会を行いました。

社会的孤立・8050問題・子どもの貧困など新たな福祉課題を挙げ、これまでとは福祉の対象が変わってきており、今までのやり方では通用しない時代となってきていること、国が薦める「地域共生社会」とはどういうものなのか、社会福祉の専門職として変化とどのように向き合っていくかなどを話していただきました。

聴講されたみなさんからは、地域包括支援センター、医療ソーシャルワーカー、民生委員など様々な立場の視点から質問や感想が寄せられました。

つどいの会では、セミナーのテーマにも使われているフレーズ「山形愛」をテーマに、集合写真を撮影しました。写真からも伝わるように、セミナー成功に向け一致団結し、山形愛・同窓会愛が更に深まった一日となりました。

活動レポート

岩手県地域同窓会

8月24日（土）に岩手県地域同窓会総会が行われ、会場となった矢巾町活動交流センター「やはぱーく」には9名が集まりました。

総会では今年度の活動と決算報告、来年度の活動計画と予算に関して話し合われたほか、6月に行われた全国代表者会議の報告がありました。その中で「学生を支援していくことは同窓会の重要な役割であり、活動の一つの柱として位置付けていきたい」「SNSやメーリングリストなどを活用し、参加しやすい体制づくりに努めたい」との意見が述べられ、その後“岩手県地域同窓会Facebook”のページの立ち上げなど、早急に取り組まれていました。

今回行われた役員改選では、長年ご尽力いただいた鹿野会長から斉藤会長に替わられ、令和元年度から新たな体制でのスタートを切りました。

その後の会員交流でも、学生時代のエピソードや近況を語り合い、和やかでありつつも熱い「ふくし」への想いが感じられる会となりました。

青森県地域同窓会

青森県の地域同窓会総会が、8月31日(土)に青森市内の「ル・プラス青い森」を会場に開催されました。

はじめに記念講演を行いました。社会福祉学部教授で社会福祉士・臨床心理士の渡邊忍先生を講師にお招きし、「児童家庭福祉の現状と課題－そして、後進たちを育てる取り組みから－」というテーマでお話しいただきました。

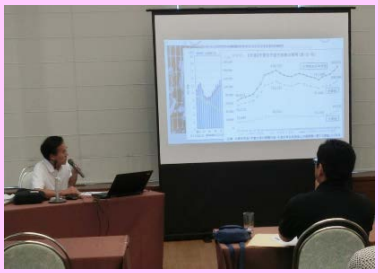
子供の貧困や児童虐待の実例を踏まえて、これからの母子保健と子育て支援の統合化などについて、先生の思いを語られました。同窓会員11名のほか一般参加者も加えると16名の参加でしたが、児童分野のお話に熱心な質疑がなされ、大変有意義な講演となりました。

講演会後の総会では、同窓会代表者会議の報告や昨年度の事業及び決算報告、今年度の事業計画ならびに予算案が話し合われました。青森県では、青森市のほか弘前市や八戸市でも総会を開催していますが、来年度も同じく青森市で開催し、令和３年度については弘前市か八戸市で開催することなどが審議承認されました。

講師の渡邊先生と東北地域ブロックの今野理事を囲んでの懇親会では、青森の地酒やおいしい海産物に舌鼓を打ちながら、お互いの現況などの話で大変盛りあがりました。

一年ぶりの再会を喜び、充実した同窓会となりました。

▲開会時の会場の様子



▲講演中の渡邊教授

福島県地域同窓会

9月28日（土）、大江戸温泉物語湯屋あいずにて福島県地域同窓会総会が行われ、16名が参加されました。2019年度は会津若松市での開催となりました。

福島県では各地方持ち回りでの開催や、講演も同時に実施するなど、多くの同窓生が参加できる・したいと思えるような工夫と配慮をしていますが、総会の中で「より参加しやすい環境づくりを」との声が上がりました。

「ダルクの方と語ろう！」と題した企画では、磐城ダルクの方にお越しいただきお話をいただルきました。ダルクは全国に66団体88施設あり、回復プログラムや就労支援だけではなく、病院への付き添いや薬の管理、生活保護や年金に関する手続きのサポートなど多岐にわたる支援活動をしているそうです。

施設利用者でありながらスタッフとしても活動している3名の方々には、入所に至るまでの経緯を赤裸々にお話しいただきました。当時置かれていた環境や抱えている事情など様々な要因が重なった結果、依存へと繋がっていく―その背景を知ると、特殊なケースで依存症に陥ってしまう訳ではなく、誰もが当事者になる可能性があるのだいうことを改めて考えさせられました。

その後、ダルクの皆さんも囲んで懇親会を行いました。時間の関係で企画内では聞けなかった部分の話も伺ったり、大学や福祉についての質問に同窓生が答えるなど、様々な話題で会話が弾み、気が付けばあっという間にお開きの時間を迎えました。

第2回 東北地域ブロック代表者会議

社会福祉セミナー翌日の11月17日（日）、山形七日町ワシントンホテルにて第2回東北地域ブロック代表者会議が行われ、東北6県の代表者・大学関係者含め総勢24名が出席しました。

東北各県の活動のほか、岩手・宮城・福島の3県で会長が替わられたこと、台風19号の被災状況と同窓会の取り組みなどの報告がされました。

また、これからの課題として情報配信の効率化や翌年度の活動計画などについて協議し、3時間にわたる話し合いとなりました。

宮城県地域同窓会

2020（令和2）年2月2日（日）、“2並び”の日に「てなんご」にて宮城県地域同窓会総会・新春懇親会が開催されました。当日は大学関係者も含め総勢16名が参加しました。

役員体制が替わり初の総会となり、事業報告・計画の確認のほか規約案や役員選出について活発に意見が出されました。
総会後の懇親会では、同窓生の方に実習でお世話になったエピソードや、現在励んでいること等熱く語り合いました。

初参加の方や数年振りに参加される方も、アットホームな雰囲気にすぐ馴染み、同窓生同士の繋がりがより深まりました。会の中では、欠席の方からいただいた近況報告と温かいメッセージの紹介もされました。

閉会の挨拶で、「卒業生はもちろん、通信教育を頑張っている学生にとっても、同窓会が“学び舎”のような場所であり“ふるさと”のような存在になれたら、と思っています」との言葉に、会場は拍手喝采。名残りを惜しみつつ、再会を誓いました。

最上町フィールドワーク

9月6日（金）～8日（日）の3日間、最上町にてフィールドワークを行いました。地域の方々との交流や体験を通じ、その地域の現状や課題・人々の想いなどを学ぶことで、学生が地域活動に関わることの意味を自ら考え、今後の学習に活かしていくことを目的とし、様々なプログラムを実施しています。今年度は社会福祉学部の1年生・2年生と引率の小松教授18名が来町しました。

初日はウェルネスプラザにて、町に関する講義を受けました。開会の際には山形県地域同窓会の新関会長より、学生へ労いの言葉とエールが送られました。

髙橋町長からは、地方創成と自治協働のまちづくりについて、教育文化の向上、地域福祉や産業振興の推進のために実践されていることなどをお話しいただきました。

環境問題に対する町の取り組みとして、木質バイオマスエネルギー事業について交流促進課長よりご説明いただきました。森林整備で発生する地域の間伐材をチップにし、燃料として町内の施設の冷暖房や給湯、融雪に利用している「バイオマスボイラー」施設を見学しました。

町の伝統行事である最上祭りにも参加し、地域の方々と交流しました。2日目は「神輿渡御」の体験からスタート。重量のある本神輿を担ぎ、家内安全と五穀豊穣を祈願して周りました。

一次産業の農業に関して「夢まどかプロジェクト」会長の奥山勝明さんを訪ね、視察を行いました。町の農産物の中で一番多く生産されているお米の中でも、農薬・化学肥料を一切使わない合鴨農法、地元赤倉温泉の熱を利用した温泉温湯消毒と、全国的にも珍しい方法で作られていることもあり、実際に田を見渡しながら、学生からは積極的に質問が挙がりました。

また、奥山さんは地域おこし活動にも尽力されており、富沢地域「地域おこし研究会」事務局長の須藤さんと一緒にお話を伺いました。地域活性化に向けて、雪まつりや園児との田植えといった趣向を凝らしたイベントの企画・開催や、行事日程カレンダーの作成など、住民一丸となってまちづくりに取り組む集落の様子を紹介していただきました。

地域伝統文化の「最上町音頭」を音頭保存会の皆さんに教わり、夕方に行うパレードに参加するべく練習に励みました。

パレード本番では総勢30名超が連なって踊り歩き、見ていたお客さんも飛び入りで一緒に踊るなど、お祭りで賑わう町にさらに花を添えました。

最終日には、最上祭りの一大イベント「仮装行列」で、映画「あのコの、トリコ。」の主題歌と大ヒットした曲「パプリカ」を合わせたダンスを披露。小さいお子さんが一緒に踊る姿や町の方々の笑顔と拍手に学生も力をもらい、 30℃超の真夏日の中最後まで元気に踊りきり、お祭りを盛り上げました。

最後に旧みつわ保育所を訪問し、東法田白川みつわ会の皆さんから、農産物の加工・販売や蕎麦打ち体験、農家レストランなどの取り組みと、活動を通してこの地域を元気にしたいという集落に対する想いを聞きました。

終了後、報告書には「地域・行政・医療といった様々な視点で物事を見ることが出来た」「住民の方々との関わりの中で、地域一体となって活動することの重要性や、協力し合うことで強くなり広がっていく“人との繋がり”を実感した」などの気付きとともに、今回の経験から新たに学んでいきたいことを挙げている学生が多く、貴重な学びの機会となりました。

◆第17回高校生福祉文化賞エッセイコンテスト 36℃の言葉。

「福祉（ふくし）」という言葉の本来の意味は「人のしあわせ」。人々の暮らしや社会のしくみを安心・安全に、そしていきがいを持ち健やかに過ごせるようにすることです。

一人ひとりの思い描く「ふくし」、身近な体験を通して感じた「ふくし」への思いを募集しました。「36℃の言葉」というキャッチフレーズは、既存のイメージだけではなく、応募者自身の体温が伝わる言葉で「ふくし」を語ってほしいという思いが込められています。

第17回目となる今回は総数8,895通のうち、青森県361通、岩手県54通、宮城県7通、秋田県14通、山形県1通、福島県149通の応募がありました。

第4分野“社会のなかの「どうして？」”で、宮城県気仙沼高等学校3年　熊谷桜花さんの作品「ともに」が見事、最優秀賞に選ばれました。

入賞作品は本学ホームページや入賞作品集でご覧いただけます。作品集をご希望の方はオフィスまでお問い合わせください。

◆「37seconds」全国上映中！

本学同窓生の佳山明さん（社会福祉学部卒）が出演する映画「37seconds」（サーティーセブンセカンズ）が2月7日より全国公開されています。

この映画は、生まれた時に37秒間息をしていなかったことにより、障害者となったひとりの女性“貴田ユマ”の成長を描いた物語で、2019年2月に開催されたベルリン国際映画祭では、パノラマ部門の観客賞と国際アートシアター連盟賞をダブル受賞しました。

全劇場、全上映回でUDCast方式によるバリアフリー音声ガイド、バリアフリー日本語字幕に対応しており、東北地域の劇場でも公開されています。

ぜひご覧ください。

◆2020年4月より、ここが変わります！

●日本福祉大学大学院 看護学研究課 修士課程 新設

看護学の専門的探求を通じて、学問的根拠をもって応えることができる研究力や教育力を有する人材の育成を目指します。

●「教育・心理学部」始動

「保育」「教育」を学ぶ子ども発達学科と、幅広く「心理」を学ぶ心理学科を擁する「教育・心理学科として新たにスタートします。

日本福祉大学　山形最上オフィス

〒999-6101

山形県最上郡最上町大字向町674 最上町立中央公民館内

電話：0233-43-9232　メール：yamagatabc@ml.n-fukushi.ac.jp

Open：火曜～土曜 10:00～18:00　Close：日曜・月曜・祝日